



小中一貫教育推進室だより

色麻町教育委員会 教育総務課 小中一貫教育推進室 65-2111 (有線 2040)



小中一貫教育先進校視察より

昨年度から、一貫教育推進委員と学校の先生方を中心に、近隣の先進校を訪問させていただき、小・中で連携した学習指導や行事等への取組のようす、施設設備のようすを視察させていただいております。

昨年度は、郡山市郡部で猪苗代湖にほど近い湖南小中学校を視察して参りましたが、去る7月14日(水)は、同じ郡山市でも中心部の明健めいけん小中学校を視察して参りました。

郡山市内には行健中学校という県内屈指のマンモス校があり、ピーク時は各学年10クラス以上、全校生徒が1000名を超えたそうです。そして、その当時教育界を賑わしていた学校課題と地域からの要望により、分離についての検討が始まったという話でした。

そして、平成19年4月に現在の明健中学校の分離開校に至りました。ちなみに、その



当時の生徒数は464名だったそうです。

即ち、昨年度の湖南小中学校とは逆で、学校のマンモス化解消と、学校課題の解決が大きくなっていたようです。



明健小中学校は元々あった明健小学校の東側に、明健

中学校を接続して建てられました。

学区内には他にも行健(中・大規模)と小泉(小規模)の2つの小学校があり、この2校とは連携を行っています。つまり、明健小中学校は一体と連携の両面、いわゆる都市型小中一貫教育を先駆的に進めた学校でした。

やはり職員室は1つで、小・中学校の先生方が同じフロアで生活していました。しかし、湖南小中学校と違っていたのは、校長先生が小・中別々に配置されていたことでした。

印象的だったのは、子どもたちのあいさつ、広い教室と大きなロッカー、吟味された特別教室、さわやかなトイレなどでした。

小中一貫教育についての講演会を実施

各地の小中一貫教育の立ち上げや、小・中学校で連携した教育の実践研究に携わって来られた、東京学芸大学名誉教授の児島 邦宏先生においでいただき、「地域に根ざした小中一貫教育の進め方」と題して、町内の教職員、小中一貫推進委員、保護者、町民を対象に教育講演会を開催しました。

児島先生の専門は学校経営学で、文科省中央教育審議会委員等を歴任し、著書も数多く、中でも校長先生の講話や学校経営改善、確かな学力の育成、中1ギャップの克服等に関する著書は、教育関係者の間では知らない人がいないくらいです。



従って、小・中学校の諸問題や教育改革、教育課程の改訂などに関することについても大変詳しく、全国各地の小中一貫教育の概要や特色等について、実践に基づいたお話しを伺うことができました。

その中で、色麻町としての小中一貫教育の理念を踏まえた実践の柱を決めることが大切であるということ。「色麻学」という郷土について理解するための学習が計画されており、教科との関連を図りながら、これを中心に据え、各学年の発達段階に合わせた指導をしていくべきであるというお話をいただきました。



特に、町づくりの核となる次世代の人材をまず最初に、小・中3校あるいは幼稚園等も巻き込んで、先生方同士の交流を始めること。

そして、小・中学校のそれぞれの成長や区切りを大切にしながらも、互いの文化の違いを理解し合い、学習指導は勿論のこと生活指導等においても、子どもたちが戸惑ったり、小・中や学年間のギャップを感じさせないような、工夫と配慮が大切であるというお話もいただきました。

とても充実した2時間だったと思います。